

「郊外」とはどこか

「ポール・ヴィリリオは、都市を取り戻すことがわれわれにとって急務だと言っています。どんなにメディアが発達しても、人は場所のなかで他者と出会うという具体的な経験を基軸にして社会について考えていかなければいけないということを言っているのですが、郊外に関しても同じようなことが言えると思います」（若林，2000）

1. 「郊外」(Suburbia) の原イメージ

(1) ハワードの「田園都市」構想 (Howard, 1965; 東ほか, 2001)

「都市と農村は結婚しなければならない。そしてこの美しい結合から、新しい希望と新しい生活と新しい文明が生まれてくるであろう」

1898『明日の田園都市』刊行／1899「田園都市協会」設立

①開発利益の信託化 ②協同的社会的建設 ③循環系を内包した自立社会

(2) アメリカにおける”Suburbia”

「郊外生活は、都市の中産階級がより快適な生物的環境のもとで私生活を営むためのロマンティックな共同的試み」(L. Mumford)

「サバービアは...アングロ-アメリカン中流クラスの集団的創造、ブルジョア・ユートピアだったのだ」(Fishman)¹

典型的郊外を描く映画・ドラマ²。裕福な白人ミドルクラスの目標としての郊外——ゲイテッド・シティを導く場合も

(3) 戦前日本における郊外化

理想主義的・非営利的な住宅地解放（西片、大和郷、田園調布）

鉄道資本による高級住宅地開発（大泉学園、小平、国立、成城学園、玉川学園、常盤台）

「田園都市は...上下水道、公園、各種公館其他の文化的公共施設が整ひ各戸が廣々とした庭園をも有する所の一の楽天地」(佐野利器『住宅論』大正14)

「ここは下水は暗渠であったり、舗装してあったり、プロムナードとってしゃれた散歩

¹ Fishman, R. 1987, *Bourgeois Utopias: The Rise and Fall of Suburbia*. Basic Books. =小池和子訳『ブルジョア・ユートピア』勁草書房, 1990.

² 「ペンシルバニア州レヴィットタウンでは、人々はお決まりのランチ・ハウスの様式に、だれがどんな『変化』をつけ加えているかをひじょうによく知っており、小さなガーゴイルをとりつけたような家屋は、お客にそれをわざわざ見せるために車で出かけたりするほどに有名な眺めとなった」W.ホワイト『組織のなかの人間』

道があったりして、まわりにくらべて高尚だったんです」(常盤台住民Y氏)³

2. 人口流入と戦後日本型郊外

(1) 人口収容のためのハウジング・チェーンの形成

- ・住都公団⁴が提供した「51C」「nDKモデル」(似田貝, 1994)
- ・大量生産方式による団地と標準家族の想定⁵
- ・ちゃぶ台からダイニングキッチンへ、食寝分離=性の分離
- ・高度成長後期には、計画的ニュータウン開発 — 「第四山の手」の形成
 アメニティ(快適性)を高めた近隣住区、歩車道分離、アクセス鉄道の建設
- ・1980年代以降、建売住宅や民間マンションが一般化 → さらなるスプロールの開発
- ・戦後30年間かけてハウジング・チェーンが完成
 間借り/木賃アパート → 公営団地 → マイホーム(戸建住宅地/NT/マンション)

(2) 飲み込まれる近郊農村

「ここに県が住宅団地と工業団地をつくる計画をたてたのだ。みんなは札束で横面を張られるようにして土地を手放していった。…ブルドーザーの群がやってきた。樹木を根こそぎに踏み倒し、土を削って田を埋めた。栗畑をつぶし、川の流れを変え、瞬く間に地平線が見えるほどの赤むけの平地をつくった。地面に積木をならべるようにして建物ができていった」(立松和平『遠雷』)

- ・農民の離農と農村共同体の急速な崩壊(文屋, 1995)
- ・地付住民と新来住民の対立 → 新来住民のマジョリティ化による問題の強制消滅
- ・旧来のトポロジーからの切り離し⁶、「飛び地」としてのNT(cf.『平成狸合戦ぽんぽこ』)
- ・ロードサイドビジネスの急成長⁷と無秩序な街並み

³ 山口廣編『郊外住宅地の系譜: 東京の田園ユートピア』鹿島出版会

⁴ 1955 日本住宅公団、1981 住宅・都市整備公団、1999 都市基盤整備公団、2004 都市機構

⁵ 「公団住宅居住者の構成は、過去20年間ほとんど変化しておらず、収入、年齢、学歴、職業、家族構成など、いずれの点においても、ほぼ類似している」『日本住宅公団20年史』。平均年齢: 37.5歳、職業: 企業管理職・専門職・事務職が7割以上、平均家族数: 3.4人(1970)

⁶ 「持ち家とは、仏壇といった死者たちの記憶が排除された家であり、テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫に始まるモノの収蔵と核家族に象徴される戦後の家庭を演出する装置として機能するよう宿命づけられた。高度成長期に都市へと向かった人々は、こうした共同幻想のなかに放り込まれたとっていい」(小田, 1998)。

⁷ 「今は郊外といっても数多くの店やレストランが立ち並んでいるので状況は変わっているが、その当時は田んぼの真んかにポツンと洋服屋が立っており、その回りには買い物などするところは全然ない。したがって来店客は当店の品物を買うという以外に目的がない」(青山五郎『非常識の発想』)

(3) 戦後郊外における家族の私事化

- ・核家族と持ち家志向
- ・モデルとしてのアメリカ製ドラマ・映画の流入⁸と「主婦化」(落合恵美子)
「家族への内閉化」「家族関係のメディア化」「家族の過重負担」(宮台)
「世代的家族から超エロスの家族へ」(芹沢俊介)⁹
- ・地域内関係と社会関係資本 (social capital) の希薄さ

(4) 要約: 「押し出された郊外」(園部雅久) の形成過程

- ・復興期における移民的労働力の受け入れ(過剰都市化) → 受け皿の必要
- ・住都公団による大規模団地建設 + 周辺のスプロールの開発 + ロードサイドビジネス
後期にはニュータウン開発 + → 雑然とした街並みの形成
- ・標準化されたハコ、私事化された家族、「場所の記憶」からの切り離し
- ・強い「持ち家」志向の形成と超郊外への拡大

3. 戦後日本型「郊外」の破綻?

(1) 戦後「郊外」モデルの破綻

- ・人口減少社会への急転換と計画人口の未充足
- ・郊外型ライフスタイルの形成と郊外生まれ世代のデラシネ化
「学校、家、地域と離れた第四空間への若者の流出」→ テレクラ・援助交際・(少年) 犯罪という指摘 「彼らは郊外の均質な風景から出てきた『名前を欠いた存在』として出会い、希薄な共同性を消費し、すみやかにチリヂリになる」(宮台真司, 1997)
- ・第二世代は戦後日本型「主婦」に幻滅 — そもそも「nDK モデル」は成人した子供の同居を想定しない

(2) バブル期を経て、輸入型郊外住宅地の失敗

(3) 都心回帰現象の突出、郊外人口の停滞

— 交通アクセスと開発中断に関する住民の不安 (千葉大社会学研究室調査 2005)

⁸ 「ステンレスの流し台とダイニングキッチン若い女性のあこがれであった。洋式トイレ、風呂場などの和洋折衷の部屋は色とりどりの美しいカーテンの装飾に包まれた。朝食は味噌汁にご飯の習慣から、トーストにミルク、目玉焼となり、室内はスリッパばきの生活となった。長く日本人の生活様式の中にあつた神棚や仏壇、床の間、障子、廊下、雨戸などは消えていった」(舟越健之輔『箱族の街』)。

9 類型	関係構成	世代	住居表現
世代的家族	親子家族	連続的	イエ
エロスの家族	夫婦家族	非連続的	核家族
超エロスの家族	友達家族	非連続的	消費家族

- (4) ニュータウンの「オールドタウン化」(福原, 1998)
タウン内近隣商店街の崩壊、住宅ストックの劣化

4. 日本における「目標としての郊外」と郊外論の可能性

- (1) 奥田道大らの「コミュニティ論」は(初期)郊外を念頭に展開された
地域内の社会関係資本 (social capital) を蓄積した郊外住宅地 (世田谷、武蔵野、...)
→ 「時間」と「緩やかな世代交代」の重要性
- (2) 「都市と農村」「新住民と旧住民」の連携
ーハワードの議論は、都市・農村が曖昧な日本にじつは適合的?
「Fusion 長池」にみる場所の記憶の取り戻しと地域内関係の編み直し
- (3) 日本において、郊外固有の生活様式 (suburbanism as a way of life)、およびそれをもとにしたコミュニティが普遍的に成立するための条件とは何か
ー未完の研究課題